

# Libra I on 11

<http://www.libra-sc.jp>

vol.

りぶらいおん

## 特集：りぶらまつり 2010

11月13日・14日開催！



# りぶらまつり2009

を振り返り、今年に活かします。

## 成果

りぶらまつり2009では、さまざまな「つながりんぐ」が生まれました。



1 スタンプラリー「LSC×Dashman×Tiger Cafe×花ばたけのざわ×Roro Colore」 2 巨大雑飾り「日本画研究会×岡崎市美術博物館」 3 りぶらまつりおんモザイクアート「学生ボランティア×駐車券×来場者」 4 CM作成「LSC×オカコミュ（ACプラネット）」 5 巨大宝船「生け花教室×セブンイレブン×フラワータツミ×庭芳造園×願成寺」 6 りぶらまつりとまちの融合「ちんどん屋(Libra)×ブレイクダンスチーム(籠田公園)」 7 わんぱく相撲の化粧まわし「(社) 岡崎青年会議所×表装一樹会×ホームワーク板屋」

## 反省

「つながりんぐ」を、一過性ではなくより継続的なつながりに。

りぶらまつり2009では、多様な「つながりんぐ」が生まれました。しかし、この「つながりんぐ」はりぶらまつり当日に最大化され、その後継続的なつながりとして顕在化しているものが少ない点が反省点として挙げられます。

りぶらまつり2010では、こうした「つながりんぐ」を一過性のものとせず、特に「りぶらまつり後にどれだけのつながりんぐが生まれたか」を一番の評価基準とし、その「つながりんぐ」が、りぶらをより活発にしたり、地域の問題を解決したり、そして岡崎をより元気にするような活動として存続していくことをめざします。

# りぶらまつり2010

を創る顔ぶれがそろいました。

発進

今年は**4**つのステージに分かれて、イベントを盛り上げていきます。

- 絵本の読み聞かせ
- 児童文学本 冊子の配布
- 赤ちゃん、小さい人々への読み聞かせ
- 利用されていない歴史観光資源のPR
- 朗読&マンドリンコンサート
- 瀬川康男 展示

## ●図書館ステージ●

リーダー：田中丸  
サポート：内田、山田(美)

- 点字、点訳の紹介 及び 体験
- 男女共同参画社会の推進 朗読劇
- おんなとおとこの討論会
- 手作りおやつや授産品の販売
- 地球温暖化啓発 ●高齢者疑似体験
- 手作りバザー、クイックマッサージ
- 視覚障がい者ガイド体験
- 重い障がいを持った方の本格的な腹話術等

## ●活動支援ステージ●

リーダー：栗木  
サポート：小竹、森

## 実行委員長：鍛冶

事務局：天野、山田(高)  
(岡崎まち育てセンター・りた)

## ●文化創造ステージ●

リーダー：神谷  
サポート：斎藤、戸松、杉浦(武)

- 書道パフォーマンス
- 消しゴムはんこを作って年賀状を作ろう！！
- 思い出の布を作品に
- 巨大パステルアート等
- 焼き絵体験
- フラワー遊び
- 「きりえ」で楽しく年賀状作り
- 自分の長所を表現
- 親子で作品を作ろう
- オカリナ体験教室の実施と成果発表会

## ●交流ステージ●

リーダー：鍛冶  
サポート：村松、杉浦(仁)

- 市民の悩み、困り事相談コーナー
- よさこい踊り ●タンドリーチキンの販売
- フラの体験コーナー ●自主製品の販売
- 耳マークをきっかけにコミュニケーション
- 地震、風水害に備える ●太極拳の体験
- 世界のフォークダンス ●ブチ演奏会
- ねぶたづくり ストリートミュージック
- りぶらとプロムナードをつなぐ
- 託児 おもちゃ作り ●和太鼓演奏
- 岡崎自然観察ウォーキング ●食農相談
- 空手&キックボクシングの演舞及び体験会



## りぶら中央図書館情報

### あたらしい図書館サービスがはじまります 「ブックスタート」

北海道恵庭市でのブックスタートの様子

11月から新規事業として、ブックスタートを開始します。ブックスタートは、絵本を開く楽しい体験といっしょに絵本を手渡し、心ふれあう楽しいひとときを持つきっかけをつくる活動です。岡崎市の未来を担う子どもたちの豊かな心づくりのため、また、子育てを応援するまちづくりのために実施します。



写真：特定非営利活動法人ブックスタート

- 対象者 : 平成 22 年 4 月 2 日以降の出生児とその保護者
- 会場 : 岡崎げんき館 若宮町 2 丁目 1 番地 1
- 実施方法 : 絵本の読み聞かせの実演をしながら、絵本をお渡しします。  
最初のポリオワクチン予防接種(生後 6 ヶ月から)の際に、会場で行います。事前の申込みは不要です。
- 実施体制 : 行政と市民の協働で取り組みます。読み聞かせの経験豊かなボランティアを始めとしたスタッフが、研修を重ねながら取り組みます。
- 問合せ : 中央図書館(康生通西 4-71 TEL23-3111)

### レファレンス事例集 6

岡崎市立中央図書館でこれまでに受けた資料相談事例を紹介します。  
「へえ～、図書館でそんなことがわかるの!」と感動(?) できるネタ満載ですよ。

国立国会図書館レファレンス協同データベース

<http://crd.ndl.go.jp/GENERAL/servlet/common.Controller> より

質問	1 西尾鉄道西尾線 2 平坂支線 3 旧西尾線 4 福岡学母線 5 門立(もだち)支線について、鉄道路線の載っている資料がみたい。
回答	1 「名古屋鉄道百年史」 p.145 2 「名鉄の廃線を歩く」 p.106 3 「名鉄の廃線を歩く」 p.131 4 「名鉄の廃線を歩く」 p.115 及び p.122 5 「名鉄の廃線を歩く」 p.115 に、それぞれ記載あり。
プロセス	西尾鉄道について「新編 岡崎市史 20 総集編」で調べる。西尾鉄道は、大正期の岡崎・西尾間の鉄道であり、大正 15 年に愛知電機鉄道に合併、その後、名鉄西尾線と呼ばれていたことがわかる。地域資料の鉄道関連の書架(A686)から、参考資料をあたり、路線図を探した。
参考資料	「名鉄岡崎市内線」藤井建著 ネコパブリッシング 2003 「名古屋鉄道百年史」名古屋鉄道 1994 「名鉄の廃線を歩く」徳田耕一編著 JTB 2001 「名古屋鉄道社史」名古屋鉄道 1961

### りぶら映像アーカイブス

岡崎市立中央図書館 2 階の視聴覚ブースでは、ビデオや DVD などの館内資料だけでなく、年代別にアーカイブス化された岡崎に関する貴重なニュース・番組映像を視聴することができます。

懐かしい映像のなかに、ひょっとして、あなたも登場しているかも?!

紹介映像 6

「家康の館開館」  
NHK ニュース

放送年: 昭和 57 年  
(1982 年)



11月3日、岡崎公園内に、「三河武士のやかた家康館」がオープンしました。

映像からは、翌年から始まる NHK 大河ドラマ「徳川家康」に出演する俳優の滝田栄さんと竹下景子さんを迎え、式典が華やかに執り行われた様子を伺い知ることができます。

当日は、お二人のチャリティーサイン会も開かれたようです。当時は、大河ドラマ開始とともに家康ブームが起ころ、家康館もたいへんな賑わいを見せました。

あれから 28 年近く経った今年の 9 月 26 日、岡崎では家康公検定が行われます。また違った形でのブームが訪れるかもしれませんね。



## りぶら中央図書館 2階テーマ展示コーナー

# 8月19日(木)～9月30日(木)

# 老後力 生きがいの探求

「人生50年」といわれていたのは、遠い過去のものとなりました。先日発表された日本人の平均寿命は、男性79,59歳・女性86,44歳です。長い人生を充実して送るためには、「生きがい」を持つことがとても大切なことだといえます。

「敬老の日」に合わせ、有識者の話やセカンドライフの過ごし方などの資料を集めて、

テーマ展示を開催します。充実した老後を過ごすための参考になればと思います。

資料はすべて貸出いたしますので、是非ご利用ください。下記の一覧は、資料のごく一部です。りぶら中央図書館の2階ポピュラーライブラリーのテーマ展示コーナーにお越しください。図書その他、ビデオ・CD・パンフレットなどもございます。

1	「人生二毛作」のすすめ 脳をいつまでも生き生き～	外山 滋比古 / 著	飛鳥新社
2	「生涯現役」時代への挑戦 定年後の生きがい	山口 宗秋 / 著	産業能率大学出版部
3	60歳から少しだけ社会貢献を始める本	佐藤 葉 / 著	実務教育出版
4	いのちのレッスン	新藤 兼人 / 著	青草書房
5	デブでズボラがエベレストに登れた理由	三浦 雄一郎 / 著	マガジンハウス
6	ときめき老後術 ひとり暮らしの骨董ざんまい	上坂 冬子 / 著	海竜社
7	ニッポン・ビューティ 本物の女たちの美しい生き方	白江 亜古 / 著	講談社
8	価値ある生き方のヒント	森村 誠一 / 著	PHP 研究所
9	悔いなく生きよう 心満たされる人生の送り方	堀田 力 / 著	講談社
10	頑固のすすめ	王 貞治 / 著	角川書店
11	今、言い残しておきたいこと 喜びに充ちた人生を歩む	飯田 深雪 / 著	海竜社
12	新☆老人生きる 生きがいの創造、長寿の健康法	吉沢 久子 / 著	ビジネス社
13	人生、90歳からおもしろい!	やなせ たかし / 著	フレーベル館
14	生きる勇氣、死ぬ元氣	五木 寛之 / 著	平凡社
15	大老年 老いて発見する男の生きがい	三浦 朱門 / 著	海竜社
16	天然老人 こんなに楽しい独居生活 (アスキー新書)	秋山 祐徳太子 / 著	アスキー・メディア
17	日野原重明のいのちと生きがい	日野原 重明 / 著	青春出版社
18	老いてこそ上機嫌	田辺 聖子 / 著	海竜社
19	老いるということ (講談社現代新書)	黒井 千次 / 著	講談社
20	老兵の消燈ラップ	佐藤 愛子 / 著	文芸春秋



# 9・10月 りぶらイベントガイド

催しの予定は変更になることがあります。詳細は主催者へお問い合わせください。

日時	イベント名・会場	料金	主催
9月3日(金) 13~14時	おやこリトミック	500円	育遊空感 べる★す~ず 080-3661-5152
9月6日(月) 10時30分~	親子で遊ぶリトミック	500円	りぶらっこ☆ふぁみりー 23-3114
9月11日(土) 10~12時15分	子どものクッキング 秋の行楽弁当を作ろう!(持帰り)	1,200円	NPO法人食育推進ネットワーク 岡崎支部 58-8069
9月12日(日) 10~12時	山野草の寄せ植え教室	500円	公園緑地課 23-6717
9月12日(日) 14~15時30分	初心者のための日経新聞入門講座	-	中央図書館 23-3111
9月14日(火) 10~11時30分	寺子屋☆脳きらり	-	長寿課 23-6837
9月19日(日) 14~16時	チームHAPPY! パパ 会議室101 パパが学ぶ叱り方・ほめ方講座	無料	りぶらサポータークラブ 23-3114
9月20日(月) 14時~	Heart&Heart ミュージカル基本		Heart&Heart 32-1373 参加料は募金(愛は地球を救う)
9月30日(木) 13時30分~	ボランティアマネージャー養成講座 会議室301	無料	りぶらサポータークラブ 23-3114
10月2日(土) 10~14時	チームHAPPY! パパ りぶら調理室 パパと子どもでピザ作りに挑戦	1,500円	りぶらサポータークラブ 23-3114
10月3日(日) 14~16時	LICCの講座 ワールドレクチャー(ドイツの歴史)		りぶら国際交流センター 23-3148
10月4日 (月) 14~16時	チャットサロン 中国語		りぶら国際交流センター 23-3148
10月7日(木) 14時~	シネマ・ド・りぶら上映会 『地下室のメロディー』 りぶらホール 13:15から整理券配布	無料	りぶらサポータークラブ 23-3114
10月9日(土) 14~17時	りぶら交差点 会議室301・302 脈動する“りぶら”を確かめ合おう	無料	りぶらサポータークラブ 23-3114
10月30日(土) 10~12時	チームHAPPY! パパ “パパ、私はどこから来たの?” って聞か れたら	無料	りぶらサポータークラブ 23-3114

※このほかの情報は、「市政だより」や「岡崎市図書館交流プラザ」・「りぶらサポータークラブ」のホームページを  
ご参照いただくか、りぶら市民活動総合支援センターもしくは市民活動センターの窓口にお訪ねください。



## 特派員レポート vol.1

### 庭で遊ぼう：いきものみっけ隊活動



いきものみっけ隊第2回は30名が参加して、7月10日(土)に行われた。前日の雨天とは対照的に好天に恵まれ、りぶら前の伊賀川周辺から岡崎公園まで散策をしながら、いろんな虫・植物を見つけた。

リーダーの杉浦さんからチョウの種類ツバメシジミとヤマトシジミの区別を

教えてもらったり、ビンドウのしかけ方を見せてもらったりした。公園内ではアオバスクのつがいが生息していて、参加者は静かに観察した。聴診器で虫の音を聴く女の子、玉虫を発見して喜ぶ男の子など、活動を楽しんでいた。

レポーター：鈴木直人 43歳



## 特派員レポート vol.2

### 岡崎図書館未来企画のアンケート実施



このアンケートは、中央図書館の「評価指標づくり」のために行われたもので、7月9日(金)・11日(日)・13日(火)の3日間、合計400人の方に答えていただきました。

中央図書館の出入りに設置された机にはアンケートと筆記具が用意され、LSCメンバーやボランティアが、来館者に声をかけました。快く応じてくれる人、遠まきにながめる人、立ち止まってちょっとのぞく人、足早に通りすぎる人と、反応は様々でした。

今回アンケートでは、年齢や性別をまんべんなく対象とするため、声をかける対象を限定させていただきましたので、そのほかの方々には、「図書館で何かやってるな」と、「市民活動」を目にする機会になったと思いました。

子どもを連れた女性は、「ふだんはあまりアンケートに協力することはないんですよ。でも、ここの図書館は好きでよく来るので」と笑って答えてくださいました。また、「行政主導ではなく、市民がこういった取り組みをしていることはとてもいいことだと思いますよ」と言われた方もありました。

一方、ボランティアのスタッフからは、「待っているだけではだめ。声かけの大切さがわかった」、「このアンケート結果がどう反映されていくのかこそが大切だ」との声がありました。

結構なボリュームのあるアンケートに、熱心に答えて下さった市民の皆様、運営にかかわって下さったボランティアの皆様、ご協力ありがとうございました。

レポーター：りん・むー



## 特派員レポート vol.3

### りぶらミステリーツアー



7月24日(土)13:30～「りぶらミステリーツアー」と題して、施設案内ツアーが行われた。参加者は小学生以下の子どもたちとその親御さんと、5～6家族の皆さんと主催者・案内ボランティアの総勢約30名ほどであった。子どもたちは園児～小学校高学年と幅広く、途中で飽きてしまう子どもも出るかと心配されたが、主催者側の事前準備・企画・進行がよく、参加者も熱心に見学されており、比較的スムーズな見学会であった。

「図書館バックヤードツアー」では、本の貸出し・返却をスムーズに行うための処理が自動化されており、このツアーの目玉であり圧巻であった。特に自動仕分け機や自動化書庫は子どもたちも大いに興味を持ち、通路から中へ入りジーンと観察したり、なかなかその場を離れよ

うとしなかったりと前向きな姿勢が目立ち、時間を気にする案内者を悩ませる(?)場面もあった。

最後に、子ども図書館で「図書館を使った学習賞コンクール入賞作品」が展示されており、夏休みの宿題を抱える親子にとって参考になる展示であり、説明を聞き興味深く見学している親子の姿が見受けられた。

今回の企画は時期もよく内容も充実しており、「もっと時間が欲しい」という子どもさんもいて、成功裡に終わったと感じた。このような企画で、もっと沢山の親子に参加してもらい、りぶらを活用する人が増え、気軽に本に親しむ環境が出来上がっていくことを期待したい。

レポーター：アラコキの悠々人(69才)





## 内田修ジャズコレクションを語る

市民活動総合支援センター所長 小柳英二

(前号から続く)

「銀巴里セッション」のレコード化によって、「日本のジャズ」が注目され始め、秋吉敏子さんや渡辺貞夫さんら、自己表現手段としてジャズを学び、アーティストとしてジャズを使いこなしていく若い日本人ミュージシャンとの親交が一層活発になっていきました。内田修さんはその過程で、例えば高価なレコードを買い揃え、超高級オーディオやピアノを置き、本格的なレコーディングスタジオまで造り、これらを惜しげもなくミュージシャンに開放しました。コレクション展示室奥に再現した「ドクターズ・スタジオ」がまさにそれで、彼らにとってはオアシス的空間だったそうです。

また、不規則な生活のため体調を壊した多くのミュージシャンに対して、手術や治療にあたりました。山下洋輔さんは、そんなミュージシャンたちを指して、ご自身の著書で「オールスター患者クラブ」と命名されています。さらには、ミュージシャンに演奏の機会をたくさん提供しようと、1964年～1997年の33年間、「ナゴヤ・ヤマハ・ジャズ・クラブ」を150回にわたり開催したのですが、他の都市でも見られるような、いわゆる全国ツアー中のメンバーをそのまま招くの

ではなく、内田さん主宰だからこそ可能な、オリジナルな組み合わせによるライブを次々と企画していきました。そのため、このヤマハ・ジャズ・クラブや、ドクターズ・スタジオで収録された録音テープは、内田さんとミュージシャンの交流の記録であると同時に、日本のジャズ史においても貴重な記録となり得ているのです。こうした活動の成果が、今のジャズコレクション展示に結実しています。

私は内田さんのそんな生き方というか、人生の時間の多くを、ジャズをテーマに割いたこれらの活動全体でもって、「内田修ジャズコレクション」ととらえています。レコードが何枚、テープが何本、書籍が何冊、だからコレクション、というのではなくてね。ミュージシャンではないけれど、マニアックなコレクターではない、口うるさい評論家でもない。ジャズという音楽文化、そしてそれに真剣に取り組む日本のジャズミュージシャンを、心から愛し、陰から支援し続



けている。そんな人って、やっぱりなかなかいないんですよ。内田さんにこういう姿勢があるからこそ、ミュージシャンの多くが今も内田さんを全面的に信頼していて、両者の間は、強い絆で結ばれているわけです。

そして、ここまで一貫した活動で、なおかつ、何の見返りも要求しない無償の活動であることでは、一つの長大な「生涯学習」なんですよ。だからこそ、このコレクションを生涯学習拠点である「りぶら」に設置する意味があると思っています。音楽としてのジャズの紹介ならば、岡崎なんかじゃなくて、アメリカのもっと立派な施設に任せておけばいいんです。

内田修ジャズコレクションは、日本のジャズ史のルーツとなる文化資産です。一人でも多くの市民の皆さんに、ここにしかない、日本のジャズ史のルーツとしての貴重な資料や記録を、見て、聴いて、共有してもらいたいと思いますし、それが、内田さんが最も希望されていることです。



## 私の一冊 vol.8 『あるヨギの自叙伝』

パラマハンサ・ヨガナンダ著 森北出版

「ヨギ」とは「ヨガ行者」のこと。著者であるパラマハンサ・ヨガナンダもインドの偉大なヨギであり、27歳で渡米して以来亡くなるまで、物質主義だった西洋にヨガの秘伝を伝え、広め続けました。日本ではあまり有名ではありませんが、ビートルズのジョージ・ハリソンやエルビス・プレスリーもこの本の熱心な読者だったといえます。

この本は、文字通り著者の半生をつづったものですが、私の人生を変えてしまった、と言っても過言ではない衝撃的な本です。なぜならこの本には、初めから終わりまで丸ごと一冊「愛」が綴られ

ていて、愛(博愛・家族愛・師弟愛)は時間も空間も死さえも超えられる、ということを教えてくださいました。読んでいる途中も、読み終わった後も、何度も何度も感慨が訪れる1冊です。

しかもそれだけでなく、ヨガの奥儀や宇宙の真理を、極めて科学的に、しかもユーモラスに解き明かしていますので、読んだ人すべてがスピリチュアルに感化されるだけでなく、神秘的な世界を科学的に理解することができるという点で稀代の書と言えるでしょう。そしてこれは私の想像の域を出ませんが、スターウォーズの“ジェダイ”は、絶対にこの本に

構想を得ていると確信しています。超人的な力“フォース”を

こなす痛快なさまは、まさにヨギそのものです。神秘主義に懐疑的な方でも、純粹にファンタジーとして楽しく読めることうけあいです。

深谷紗与子：ふかやさよこ

NOP法人岡崎まち育てセンター・りた事業開発チーム広報担当。「Litaracy」という情報誌を編集しています。今、タイ料理・インド料理を作るのに凝っていますが、どちらかという食べるほうが好き。

